

お願い

本製品をご使用いただく前に、必ず、添付のユーザー登録カードを弊社宛てにご返送ください。ユーザー登録を行っていない場合、大切なお知らせ等、ご連絡できない場合があります。また、本製品に関しての不良・不具合等に関しましては、販売店もしくは下記の連絡先までご連絡ください。

お買上日	年	月	日
販売店名 又は ご購入先			

本書について

- ・ 本書の内容の一部または、全てを無断で転載することは禁止されております。
- ・ 本書の内容について、予告なく変更することがございます。
- ・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一不審な点や・誤記・記載漏れなどお気づきの点がございましたら、弊社または販売店までご連絡ください。



国土交通省型式承認・船舶用救命器具製造メーカー

日本船具株式会社

本社	108-0071	東京都港区白金台1丁目5番5号	TEL 03-3447-7272
君津工場	299-1173	千葉県君津市外箕輪80番1	TEL 0439-52-6114
富津工場	293-0052	千葉県富津市宝竜寺354番地2	TEL 0439-66-0387
阿寒工場	085-0214	北海道釧路市阿寒町富士見1丁目16番9号	TEL 0154-66-2993

取扱説明書

作業用救命衣(膨脹式)
(小型船舶用救命胴衣兼用)

NS-777型



日本船具株式会社

はじめに

この度は作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)NS-777型をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。海上、水上等で本製品を安全にご使用していただく為、本書を作成いたしました。本書には、本製品を安全にご使用いただくための重要な事項が記載されております。本製品をご使用になる前によくお読みになり、ご理解の上、本製品を正しくご使用いただきますようお願い申し上げます。
また、本書は本製品をご使用になる際、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

本書の表記(警告)について

下記の表示は本製品を安全に正しくご使用いただき、使用者や周囲の方に起こりうる恐れのある危険や損害を未然に防止する為の目安となるものです。内容をよくご覧の上、本書をお読みくださいますよう、お願い申し上げます。



危険

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が死亡または重傷を招く切迫した状態が想定されることを示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性があることを示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が障害を負う危険性、並びに物的損害の危険性があることを示しています。

1. 必ず守っていただくこと

【安全の為の注意事項】



危険

- この作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)(以下本製品という)は、救命設備としての用途以外には使用しないでください。
- 本製品は一人用です。複数での使用は絶対にお止めください。
- ご使用前に必ず点検を行ってください(P.8参照)。本製品の点検は、所有者が責任を持ってメンテナンスを行なうようにし、自主点検表に従って日付と結果を記入してください。
- 着用方法および使用方法(P.10参照)をよくお読みになり、着用手順に従って正しくかつ正確に着用してください。誤った方法で着用しますと、救命胴衣本来の機能が損なわれる恐れがあり、最悪の場合、溺死することがあります。
- 気室に傷をつけないでください。気室に穴があくと注入した炭酸ガス等が漏れることとなり、本来の機能を果たすることができません。傷等による破損の可能性がある場合には直ちに確認し、炭酸ガスの漏れがあった場合には使用を中止し、新しいものと交換してください。
- 本製品を分解または、改造しないでください。
- 膨脹装置本体は絶対に取り外さないでください。膨脹装置が作動したときに炭酸ガス等が漏れて気室が膨脹しなくなります。
- 膨脹装置を作動させると、炭酸ガスボンベ(以下ボンベという)のガスがなくなり再使用できません。膨脹装置を作動させた場合は、必ずボンベとスプールを新しいものと交換してください。
- 水中で浮遊する場合、本製品に損傷を与えるようなものに注意してください。気室に損傷を与えると溺死する場合があります。
- 高所などの危険な場所では自動膨脹式の救命胴衣を使用しないでください。
- 膨脹させて水中に入る場合、3mを越えた高さから飛び込まないでください。
- 手動膨脹は、-10℃以下の気温で使用しないでください。また自動膨脹の場合、0℃付近では遅い反応で膨脹します。
- 本製品は、泳げない方にはお薦めできません。
- 水中で使用(浮遊中)は、絶対に気室内のガス等の気体を抜いたりしないでください。
- 高湿度や雨などの水分で不意に膨脹装置が作動することがあります。また、内部のスプールが濡れると自動膨脹する為、強い波や雨等の水が膨脹装置にあたらないようにしてください。



警告

- 本製品を投げたり、落としたり、乱暴に扱う、強い衝撃を与える等の行為をしないでください。膨脹装置の故障や誤作動による不具合や気体の漏れ等が生じる場合があります。
- 火気には近づけないでください。気室に穴があく恐れがあります。
- 突起物等の突き刺し、引っかけなどの破損には十分注意してください。救命衣を着用する場合は、気室を傷つける恐れのあるもの(ネクタイピン・バッジ等)は着用する前に取り外しておいてください。
- 本製品の膨脹装置を作動させる前に、吹込み口から空気を注入しないでください。膨脹装置が作動した時、気室内の圧力が過大になり気室が破損する恐れがあります。
- 本製品を着用する場合は、必ず着衣等の上から着用してください。着衣の内側に着用すると自動膨脹装置の作動が遅れたり、膨脹するスペースが制限される等して、本来の機能が阻害される恐れがあります。
- 本製品を膨脹させて水中に入る場合、正確に着用しているか確認してから膨脹装置を作動させ、膨脹した本製品を抱きかかえるように抑えて水中に飛び込んでください。
- 本製品は落水時など水分を感知して膨脹装置を作動させる補助的機能も付いていますが、素早く安全を確保する意味で手動作動索を下方へ引いて膨脹させてください。万一、膨脹装置が作動しない場合は面ファスナーを全て外し、送気管から直接息を吹き込んで膨脹させてください。
- 送気管は絶対に折り曲げたり、傷つけたりしないでください。
- 炭酸ガスは無害ですが、排気の際、吸い込まないように気をつけてください。



注意

- 磯などの岩や貝または鋭利なものがある場所でのご使用は、気室に損傷を与える可能性がありますので十分注意してください。
- 本製品を湿気の多い場所や、雨ざらしの場所に放置したり、濡れたままにしておくと、スプールが水分を感知して自動膨脹しますので、着用しない時は乾燥した場所に保管してください。(P.13参照)
- 着用する前にバックル・胴部ベルト、背部ベルト等の部品が傷ついたり・破損したりしていないか確認してください。(P.7参照)
- 本製品の上に座ったり、重いものを載せないでください。破損や劣化の原因となります。
- 燃料・オイル・溶剤等に近づけないでください。
- 汚れを落とす場合は、中性洗剤で手洗いして下さい。(P.12参照)

2. 製品の主な規格

本製品の基準について

本製品は、船舶設備規定及び小型船舶安全規則に基づく作業用救命衣(小型船舶用兼用)に適合したものです。

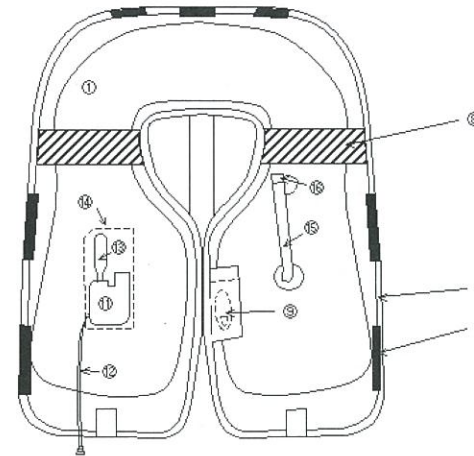
タイプ	作業用救命衣 (小型船舶用救命胴衣兼用) 膨脹式(自動膨脹機能付)
型式名	NS-777型
国土交通省 型式承認番号	第 4561 号
浮力	初期浮力 9.9kg (水温19℃、気温19℃において) 24時間後 9.2kg (水温18℃、気温19℃において)
サイズ	フリーサイズ
製品重量	約560g
常用圧力	16.0kPa

3. 本製品をお使いになる前に

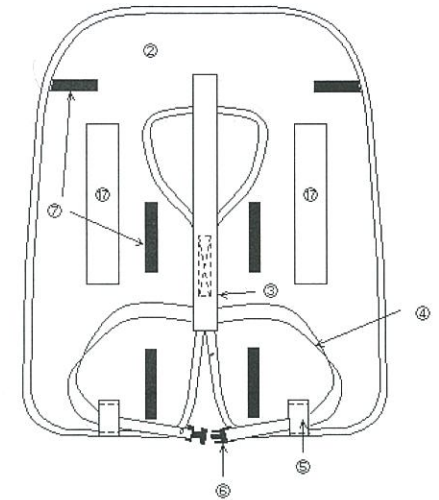
ここでは本製品をご使用になる前に必要な確認事項について説明いたします。
製品及び付属品を確認してください。
万一不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- 本書は16頁から構成されています。乱丁、落丁はありませんか
- ボンベ(未使用)は装着されていますか
- 手動レバーが正しい位置にあり、シールピンで正常にとめてありますか
- スプール(水分感知具)に異常はないですか。伝導軸(キャップ中央部の金属部)がへこむことなく正常な位置にありますか
- 本製品の表示部(銘板)に、検定合格印(サクラマーク)が押印されていますか

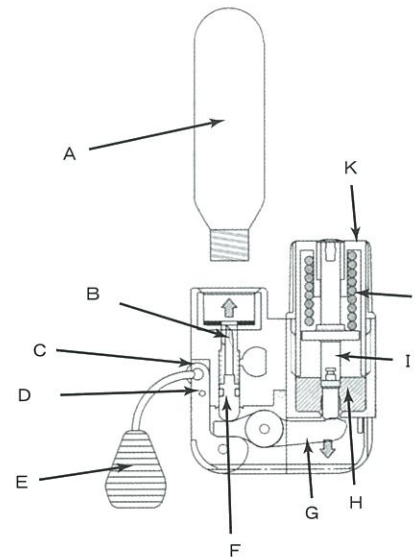
【表面】



【裏面】



<膨脹装置>



- | | |
|--------------|-------------|
| ① 気室布 | ⑩ 縁取りテープ |
| ② 覆布 | ⑪ 膨脹装置 |
| ③ 背部ベルト | ⑫ 手動作動索 |
| ④ 胸部ベルト | ⑬ ボンベ |
| ⑤ 胸部ベルト用ガイド | ⑭ 保護カバー |
| ⑥ 胸部ベルト用バックル | ⑮ 送気管 |
| ⑦ 面ファスナー | ⑯ 吸排気弁・キャップ |
| ⑧ 再帰反射材 | ⑰ 銘板 |
| ⑨ 呼び笛 | |
-
- | | |
|--------------|---------------|
| A 炭酸ガスボンベ | G 自動レバー |
| B インサート針 | H スプール(水分感知具) |
| C 手動レバー | I 伝導軸 |
| D シールピン | J 作動スプリング |
| E 手動作動索及び握り玉 | K キャップ |
| F 撃針 | |

膨脹装置のしくみ (P.7参照)

構成部品は、膨脹装置(本体)、炭酸ガスボンベ、スプール(水分感知具)、キャップ(伝導軸付スプリング内蔵)等からなり、膨脹装置の中には自動レバー、撃針、インサート針、手動レバーが付いています。

膨脹装置は、手動索を下方へ引くと手動レバーが上がり、撃針を押し上げ、インサート針でボンベの封板を破り炭酸ガスが気室に充填される仕組みです。

また、補助的に本体に取付けてある装置に水が入って水の作用により自動的に装置が作動し、膨脹する機能も付いています。これは、スプールが水分を感知し、スプール内の材料が溶解することにより伝導軸が自動レバーを押し、撃針を押し上げ、インサート針でボンベの封板を破り炭酸ガスが気室に充填される仕組みです。

膨脹装置は重要な装置です。乱暴に扱ったり、強い衝撃を与えたりしないで下さい。

自主点検表

*** ご使用前に毎回必ず点検を行ってください。**

部位	点検項目	点検内容	日付	結果
胴衣 本体	外観・ 目視	1) 気室表面、縫製部、面ファスナー、付属品等(傷・劣化・糸のほつれ等) 2) 色、標示、再帰反射材(変色、劣化、傷)		
	漏洩 試験	送気管より、口で空気を入れ気室をいっぱい膨らませます。24時間放置した後、空気が抜けていなければ合格となる(注:1)		

点検内容項目にレ印を付し、結果欄に良否を記して下さい。全ての点検結果が良の場合は引き続き使用できますが、一つでも合格していない項目がある場合は、その胴衣は使用できません。販売店又はメーカーにご相談ください。

(注:1) 空気を最後まで完全に抜き取り、収納してください。(例えば、掃除機によるバキューム等) 漏洩試験の際には給排気弁の損傷に気を付けて下さい。

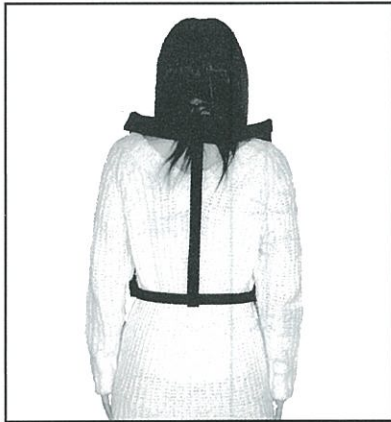
(注:2) 部品交換の際には、販売店又はメーカーから専用部品を取り寄せて交換して下さい(P.6/7参照)

(注:3) ガスボンベ本体に刻印表示してある重量より軽い場合は交換してください。

部位	点検項目	点検内容	日付	結果
膨脹 装置	外観・ 目視、 点検	1) ガスボンベ:封板(穴の有無、穴があれば交換、一度使用したボンベは再使用不可)(注:2) 2) ガスボンベの重量測定(注:3) 3) 膨脹装置:破損の有無 4) スプール(溶解の有無) 溶解の場合及び交換時期が過ぎている場合は部品交換(注:2) 5) 手動レバーが正しい位置にあること 6) 手動作動索及び握りダマが正しい位置にあること(外に出ていること) 7) シールピンの有無 8) キャップ中央の伝導軸(金属部)がキャップの上面にあること 9) ガスボンベが確実に取り付けられていること 10) 保護カバーに傷が無く、装置本体に正しく装着されていること 11) 膨脹装置本体はいかなる場合も取り外さないこと(炭酸ガス等の漏洩の原因となる)		
補助 充気 装置	外観・ 目視 機能 点検	1) 送気管及び吸排気弁・キャップ(破損、ひび割れ、ゆるみ等がないこと)		
本体 付属品	外観・ 目視	1) バックル、ベルト(破損、傷、劣化、機能障害) 2) 笛(有無、音がでることを確認する)		
保護カバ (外側)	外観・ 目視	傷、穴がある時は交換		

4. 着用方法および使用方法

1. 銘板が付いている方を内側にし、ベルトと本体の開口部に腕を通してください

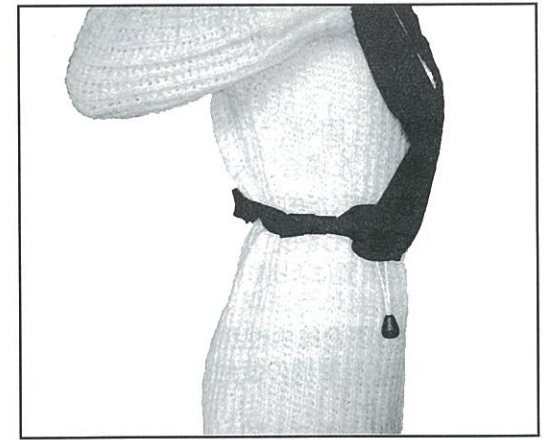


2. 背部ベルトが背中の中の中心にくる様、調節してください

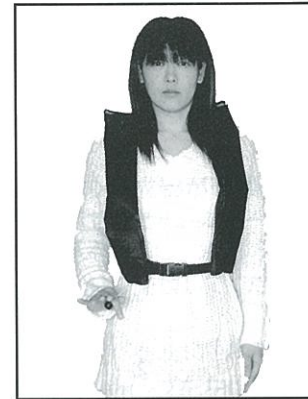
3. バックルをしっかりと確実に(カチッと音がするまで)装着してください



4. 胸ベルトを引っ張り、身体に密着するようにサイズを調節してください。余ったベルトは垂れ下がらないように、胸部に巻き込んでください



5. 本製品を膨脹させる場合や落水時には、手動作動索を下方へ引きご使用下さい。膨脹装置が一定時間以上水没すると装置が作動し膨脹しますが、この機能は補助的なものです。



6. 膨らみが十分でない場合は、送気管の上部にあるキャップをはずし、吸排気弁から息を吹き込みます。気温や水温の影響等で、十分な浮力が得られない場合は使用しないでください。

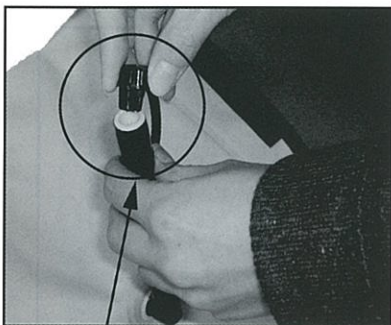


水中では、絶対にガス等の気体を抜かないでください



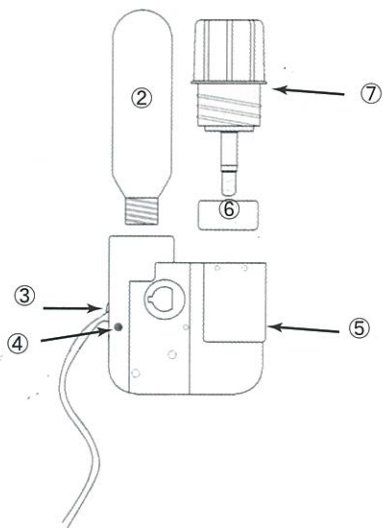
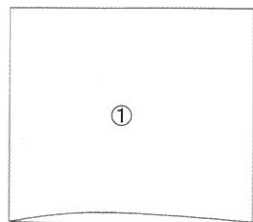
5. ご使用後の取扱いについて

- ご使用後は、固く絞った布等で汚れを拭き取ってください。
また、膨脹した場合、送気管のキャップのつば部分を管に差込み、吸排気弁を押して空気を抜いてください。(下の写真を参照ください)その後、真水でよく洗い、風通しのよい場所で陰干しをし、新しいスプール・ポンペ等を取付けてください。
* 膨脹装置により膨脹させた場合は、スプール・ガスポンペの交換を忘れずに行ってください
- 洗剤を使う場合は中性洗剤を使用し、溶剤やアルコール等の薬品は使用しないでください。また、洗濯機の使用やドライクリーニングは行なわないでください。
- 気室の表面を傷つけないように注意してください。



キャップのつば部分を送気管の管に差し込んでください

<膨脹装置>



- | |
|----------------|
| ① 保護カバー |
| ② 炭酸ガスポンペ |
| ③ 手動レバー |
| ④ シールピン |
| ⑤ 本体 |
| ⑥ スプール (水分感知具) |
| ⑦ キャップ |

● 保管上の注意及びメンテナンス

- ① 高温、低温、多湿、直射日光の当たる場所、海水・雨水の浸入しやすい場所及び火気の近くでの保管はお止めください。自動膨脹装置の誤作動や本製品の破損、劣化の原因となります。
- ② 本製品を濡れたまましまうと湿度でスプールが作動することがあります。濡れている場合は、陰干してから保管してください。
- ③ 外側の外装布は気室を保護する役割も兼ねています。気室布が見えていると損傷の原因となりますので、必ず気室布が見えないように折りたたみ保管してください。
- ④ 半年に1度は膨らませて、性能に問題がないか確認してください。炭酸ガスポンペ及びスプールは消耗品です。
- ⑤ ネズミの害のある場所は避けてください。
- ⑥ 本製品の上に重い物を置いた状態で保管しないで下さい。気室布に傷が付いたり、膨脹装置が破損する恐れがあります。
- ⑦ P.8の自主点検表に従い、点検と確認を必ず行ってください。

● スプールとガスポンペの交換方法および再セット方法 (P.12参照)

本製品は本体の構成部が破損しない限り、スプールとポンペを交換することにより再度使用することができます。スプールとポンペの交換方法は次の方法で行ってください。(スプール及びポンペは、本製品を実際に水中で使用した場合または、遅くとも購入後1年を経過する前に交換してください。)

- ① 使用済みポンペを左に回して取り外してください。
- ② 膨脹装置のキャップを左に回してはずし、使用済みのスプールを取り出してください。
- ③ 新しいスプールを膨脹装置の中に挿入し、膨脹装置のキャップをしっかりと締め、キャップ中央部の伝導軸(金属部)がキャップの上面にあることを確認してください。(この時、膨脹装置の中の水分は完全に拭き取ってください。また、スプールはどちらが上になっても支障ありません)
- ④ 手動レバーがもとの場所にきっちりと戻っており、シールピンが装着してあることを確認してください。
- ⑤ 未使用のポンペを右に回して、しっかりとねじ込んでください。
- ⑥ 反射材が付いている気室面(膨脹装置の付いている面)を上にして、膨脹装置を覆うように気室を二つ折りにして面ファスナーで留めてください。この時、送気管は絶対に折り曲げないように注意してください。衿部は最後に気室を手前に折り曲げて面ファスナーを留めてください。
- ⑦ 手動作動索及び握り玉が本体の外側に出ていることを必ず確認してください。

6. 製品の交換時期及び廃棄方法

下記のような兆候が製品に現れた場合や、目に見える破損がある場合は新しいものと交換してください。



交換時期

- ① 胴衣本体(気室)が破損しているとき
- ② 外装布が磨耗したり、面ファスナーが疲労して気室布を保護することが難しい場合
- ③ 外装布の上から鋭利なものが刺さったりして、気室布を破損してしまった場合
- ④ 自動膨脹装置にひび等が入り、気密性に問題が生じる可能性がある場合
- ⑤ 補助充気装置及び送気管が破損している時
- ⑥ 腰ベルト及びバックルが破損しているとき
- ⑦ 外装布が油等の汚れで表示が見えなくなったとき
- ⑧ 本体又は付属品の縫製糸がほつれたり、切れたとき
- ⑨ 胴衣本体、ベルト、付属品等の色が退色しているとき
- ⑩ スプール及びポンベは本製品を膨脹させた場合、新しいものと交換してください。
- ⑪ スプールは、経年劣化により膨脹装置の作動時間が長くなるため、遅くともご購入後1年以内で定期的に交換してください。使用環境や保管状況によっては、更に劣化の進行が早くなりますので、早目の交換を推奨いたします。

<廃棄方法>

廃棄される場合、産業廃棄物として処理するか、または、各地方自治体の処理方法に従ってください。

自己点検記録用メモ

日付	点検内容	点検結果